

スタジオ教育を核とする高度専門建築家養成プログラム

正会員	田	村	明	弘	君
正会員	山	本	理	顕	君
正会員	北	山		恒	君
正会員	飯	田	善	彦	君
正会員	西	沢	立	衛	君
正会員	寺	田	真	理子	君

わが国の大学院教育は、基本的に研究者・教育者を養成する仕組みになっており、実務家である建築家を養成するプログラムになっていない。建築家を目指す院生は、意匠計画系の研究室に配属され指導教員の下で設計プロジェクトや競技設計に参加して技を磨く道が通例であり、国際的に通用する建築家養成教育の体系をなしていないと批判されてきた。本プログラムは、この状況を改革するために周到な準備と試行を重ね、グローバル標準の実践的な建築家養成プログラムとして設置された横浜国立大学大学院修士課程であり、その貢献は高く評価される。

本プログラムは、スタジオ制の設計教育を根幹とし、横浜というユニークな都市に立地する特性を活かし、グローバルな国際的都市文化研究教育とローカルな即地型プロジェクト研究教育という二つの視点を連携融合させながら、次世代の都市を構想し創造する高度専門職業人としての建築家養成を目指すことを特徴としている。

設計教育の核として、4人の実務家教員が主宰するスタジオ制を導入し、専門のスタジオマネージャーの下で集中的かつ濃密な設計教育を行い、修士論文に代わるポートフォリオ審査を受けることを修了条件の一つとしている。また、国際的都市文化研究教育としてふたつのワークショップを実施している。すなわち、海外の注目すべき建築家を招聘し、英語による理論構築を行うワークショップⅠ（理論）と海外の建築スクールとの共同によって海外プロジェクトの提案を行うワークショップⅡ（実践）があり、海外の建築家の思想・都市へのアプローチに触れ、国際的水準の建築デザイン教育を体験する機会を提供している。即地型のプロジェクト研究教育としては、横浜市行政との共同都市プロジェクトに参加し、地域の将来像を描くプロジェクトをスタジオ課題に取り入れ、都市問題の高度なレベルにおける解決に参画する機会となっている。また、行政や企業から委託された共同プロジェクトを、インディペンデント・スタジオとして院生が主体的に関わるとして運営されている。この他にも地域の3大学が連携して大学院コンソーシアムを設置するなどユニークな試みを行っている。

その教育効果を高めるために、スタジオ教育の内容をメディアを通して外部へ公開するとともに、紹介用ブックレットの制作や展覧会の開催などによって開かれたプログラムであることを打ち出し、多くの志願者が応募していることも注目される。

以上から、田村明弘君をはじめとする応募者の業績はきわめて大きいものである。よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。